あきる野市 ゆかりの人

ゆかりの人に想いを馳せ、ゆかりの地を巡る旅

田中丘隅

鈴木寛太郎

深澤権八

坂本龍之輔

疋田浩四郎

岸忠左衛門

荻原タケ

海老澤峰章

三ヶ島葭子

千葉卓三郎

丸山惣兵衛

東京都あきる野市

いにしえの時に心寄せ あきる野を歩く

あきる野市の歴史

あきる野には、豊かな水と自然の中に早くから文化がひらけ、縄文時代から古墳時代の考古学研究史に残る遺跡が多く発掘されています。

阿伎留神社は、平安時代の「日本三代実録」と「延喜式」に記載されている古い神社です。また、大悲願寺の「木造伝阿弥陀如来及脇侍千手観世音菩薩・勢至菩薩坐像」もこの時代の終わりごろに作られたと考えられています。

武蔵国は代表的な馬の産地で、四つの勅旨牧の一つ小川牧は、小川郷（秋川・平井川流域）を中心にした牧でした。

鎌倉時代、この地域は秋留郷と呼ばれ、武蔵七党のうち西党に属する小川氏、二宮氏、小宮氏、平山氏などが鎌倉幕府の御家人として活躍していました。また、室町時代になると、武蔵総社六所宮随一の大社である二宮神社は、小川大明神と呼ばれていました。

戦国時代の終わりごろからは、伊奈と五日市に「市」が開かれました。江戸時代になると木材は、秋川・多摩川を筏で流し江戸に送っていました。江戸時代末期には、炭などが盛んに取引され炭の年産が20万俵、筏は3000枚を数えました。このほか、絹糸を泥染めした黒八丈は、柔らかく深い艶のあることから帯や着物の衿などに珍重され、別名「五日市」と呼ばれました。

江戸時代の集落は、秋川・平井川の段丘面や草花丘陵縁辺などに点在し、現在もその多くが市域の字名として残る32か村となって明治時代に至っています。

ゆかりの人の地を巡る

あきる野市は豊かな自然や歴史に恵まれ、文化人や商人など多くの人々を引きつけ、豊かな文化圏を形成してきました。その歴史の中で、様々な分野で活躍をした、ゆかりの人の功績を広め、未来へと受け継ぎ、ゆかりの人を想いながら記念碑などとともに周辺の歴史・文化の地を巡るモデルコースを紹介します。

P2
萩原タケ
（1873年～1936年）

P3
海老澤峰章
（1851年～1918年）

P4
深澤権八
（1861年～1890年）

P4
千葉卓三郎
（1852年～1883年）

P6
疋田浩四郎
（1849年～1896年）

P6
坂本龍之輔
（1870年～1942年）

P7
三ヶ島葭子
（1886年～1927年）

P7
丸山惣兵衛
（1804年～1897年）

P8
田中丘隅
（1662年～1729年）

P8
鈴木寛太郎
（1883年～1975年）

P9
岸忠左衛門
（1869年～1935年）

ロンドンから帰って（36歳）

画像提供：日本赤十字看護大学史料室

三陸大津波救助活動（左）（23歳）

弘済丸婦長（27歳）

晩年のタケ（62歳）

五日市出張所前の胸像

MAP D3

医療

萩原タケ【はぎわら たけ】1873 - 1936

日本のナイチンゲール

明治6年（1873年）当時神奈川県多摩郡五日市村中下宿（現在のあきる野市五日市）に生まれる。明治11年（1878年）満5歳のとき、勧能学校に入学。読書に励み、裁縫も得意で弟たちの子守もしながらも、優等賞を受賞するほど優秀であった。

娘時代

向上心が強いタケは、15歳から通信教育を受け、18歳で上京し、産婆学校に入学。通学、学費など厳しく1年足らずで退学し帰郷するが、あきらめきれず、明治25年（1892年）日本赤十字社の看護生徒募集を10月になって気づき、途中入学の嘆願書を提出。

嘆願書は認められなかったが、半年後の明治26年（1893年）満20歳の春、第7回生として入学を果たした。

看護の道へ

入学後タケは、機敏で器用で気配りができる看護婦として信頼され、明治29年（1896年）6月の三陸大津波では災害派遣班にも選ばれており、「全国の看護婦の模範となる核となるべき」という言葉を胸に、看護の道を突き進む。

卒業後も日赤が行った救護活動などには必ず選ばれ、明治33年（1900年）（27歳）の北清事変では、病院船「弘済丸」の看護婦長となる。救護者の中にはフランス兵をはじめとする外国人も含まれており、このときの献身的な看護によりフランス政府から「オフェシェー・ド・アカデミー記章」を贈られる。

その後、明治36年（1903年）30歳でタケは看護婦副取締役となり全看護婦を統括するとともに生徒の教育養成に当たる。

世界へ

明治40年（1907年）（34歳）のとき、パリに行く伏見宮家・山内侯爵夫人の健康管理のため同行、国際看護婦協会（ICN）ロンドン大会への出席など約2年間ヨーロッパで生活し国際的な活動をする。

帰国後、日本赤十字病院に復帰し、明治43年（1910年）には日本赤十字病院の看護婦監督に就任。

大正9年（1920年）（47歳）にタケの数々の功績が認められ、第1回フローレンス・ナイチンゲール記章を日本人として初めて受賞した（同年に、日本赤十字社がシベリアのポーランド孤児を救出した際には、ウラジオストック経由で日本に渡った孤児の介護を指揮している）。

明治43年（1910年）の日本赤十字病院看護婦監督就任から、亡くなるまでの28年間を監督として2,700人あまりの看護婦の養成・指導にあたった。日本赤十字社は盛大な病院葬をもって長年の功績に報いた。

これらの功績を大勢の方に知ってもらうため、あきる野市役所五日市出張所玄関前には「萩原タケ女史　人道のため国家のため」と題した胸像が建てられた。今でも訪れる方が後を絶たない。

胸像に記された「人道のため国家のため」という言葉は、タケが明治42年国際看護婦協会のロンドン大会に出席し、ナイチンゲールを訪ねた際、ナイチンゲールから贈られた言葉の一部である。

（参考文献）「秋川流域人物伝」・「多摩のあゆみ」・「郷土あれこれ」・「五日市町史」

フローレンス・ナイチンゲール記章

傷病者の看護の向上に献身し、人道博愛精神の昂揚につくした女史の偉大な功績を永遠に記念し、看護活動に顕著な功労のある人を顕彰するもの。第8回（1907年）および第9回（1912年）の両赤十字国際会議の決議に基づいて制定された「F.ナイチンゲール基金」によって創設され、F.ナイチンゲール女史の生誕100周年を記念して1920年に第1回の記章が授与された。

画像提供：日本赤十字社

もっと知りたいゆかりの地

勧能学校跡　MAP E3

五日市小学校の前身。明治6年太子堂を改修して勧能学舎を開設したのが始まり。萩原タケが通った学校でもあり、五日市憲法草案起草者の千葉卓三郎も教鞭を取っていた。

学校跡には東町観音堂があり地域の方々が大切に守っている。そこに鎮座する阿弥陀如来坐像は市有形文化財にも指定されている。

あきる野市五日市164番地

医療

海老澤峰章【えびさわ　ほうしょう】1851 - 1918

海老澤峰章

嘉永4年（1851年）3月18日に引田村（現在のあきる野市引田）に生まれる。代々名医であった海老澤家で生まれ、峰章は幼いときから漢学と書道を石川友益から学び、医術は父の俊斉に学んだ。

俊斉は13年医道研究に専心し30歳で開業した名医で、峰章は優秀な父から医学を学び、その名は名医、仁医として知られるようになる。

非常に親切で仁愛を持って接する峰章の元に、患者は常にいっぱいで貧しい患者には無料同然で診察していた。三多摩はもちろんのこと、山梨、神奈川、埼玉からも患者が訪れ、医院の近くには宿屋もできて、遠方からの患者は宿泊していた。

峰章は医術に限らず地方文化、社会、産業面の向上にも力を注ぎ、道路改修、橋の架設、神社仏閣など私財を寄付していた。特に菩提寺の宝泉寺の再建に尽力し、村民にとって欠かすことができない存在だった。

大正7年（1918年）4月17日、多くの人に惜しまれながら68歳の生涯を終わるが、峰章が亡くなってから三十数年たった昭和の時代にも、山梨から「峰章先生の薬をいただきたい」とたずねて来る人がいた。

海老澤峰章の功績を称え、宝泉寺には碑が建てられ碑文には「父に就いて医術を専修す。ことごとく家伝の秘訣を領し、その術神に入り、妙を究め、百診百中、医の癒えざる者無し、ゆえに患者は常に群集す」と記されている。

（参考文献）「秋川流域人物伝」・
「郷土に光をかかげたひとびと」・「秋川市史」

宝泉寺　顕彰碑　MAP H3

もっと知りたいゆかりの地

えびさわみち道標　MAP I2

峰章が夜中でも治療に通った道を、平井村（現在の日の出町平井）の人たちが「えびさわみち」と呼ぶようになり、明治25年（1892年）には平井村や菅生村の人々が峰章の功績を称えて平井村と引田村の間に31.5cm四方、高さ75cmの角柱の道標を建てた。道標は現在、千代原公園内にある。

道標には「ひきだ・ゑびさハみち」の文字が読み取れ、「闇乃夜に 外さぬ 術や風光る」の句も刻まれている。個人名が道路名になった珍しい例。

あきる野市上代継130番地

歴史

深澤権八

1861 - 1890 【ふかさわ ごんぱち】

深澤権八

深沢村（現在のあきる野市深沢）の豪農深澤名生の長男で文久元年（1861年）生まれ。

明治9年（1876年）、15歳で村用掛（村長にあたる）をつとめ、19歳で学芸講談会の幹事となるなど、秋川谷自由民権運動の若き指導者であった。

また、千葉卓三郎の最大の理解者であり、後援者でもあった。

明治21年（1888年）神奈川県議会議員に選ばれたが、同23年（1890年）に29歳の若さで亡くなった。

歴史

千葉卓三郎

1852 - 1883 【ちば たくさぶろう】

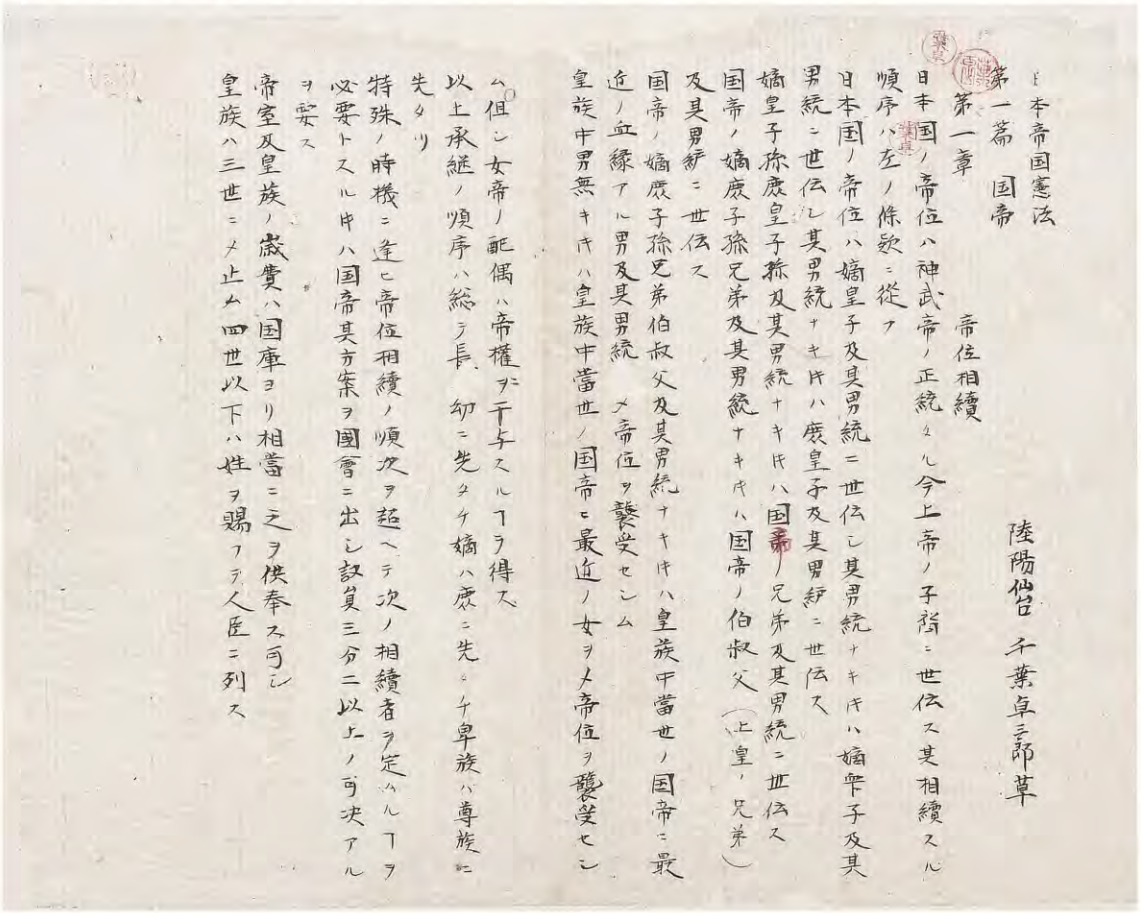
千葉卓三郎の肖像画

嘉永5年（1852年）仙台藩士の子として生まれる。17歳で戊辰戦争に参加して敗北。様々な思想遍歴を経て、五日市勧能学校の教員となる。

自由民権運動に積極的に参加し、五日市憲法草案を起草する。

明治15年（1882年）結核が進行し、療養をはじめるが同16年（1883年）31歳で亡くなった。

五日市憲法草案



日本帝国憲法

第一篇 国帝

第一章 帝位相續

日本国ノ帝位ハ神武帝ノ正統ナル今上帝ノ子孫ニ世伝ス其相續スル順序ハ左ノ條款ニ従フ

日本国ノ帝位ハ嫡皇子及其男統ニ世伝シ其男統ナキトキハ嫡庶子及其男統ニ世伝シ其男統ナキトキハ庶皇子及其男統ニ世伝ス

嫡皇子孫庶皇子孫及其男統ナキトキハ国帝ノ兄弟及其男統ニ世伝ス

国帝ノ嫡庶子孫兄弟及其男統ナキトキハ国帝ノ伯叔父（上皇、兄弟）及其男統ニ世伝ス

国帝ノ嫡庶子孫兄弟伯叔父及其男統ナキトキハ皇族中當世ノ国帝ニ最近ノ血縁アル男及其男統ヲ帝位ヲ襲受セシム

皇族中男無キトキハ皇族中當世ノ国帝ニ最近ノ女ヲシテ帝位ヲ襲受セシム

但シ女帝ノ配偶ハ帝權ヲ干与スルコトヲ得ス

以上承継ノ順序ハ総テ長幼ニ先タチ嫡ハ庶ニ先タチ皇族ハ尊族ニ先タツ

特殊ノ時機ニ逢ヒ帝位相續ノ順次ヲ超ヘテ次ノ相續者ヲ定ムルコトヲ必要トスルトキハ国帝其方案ヲ国會ニ出シ議員三分二以上ノ可決アルヲ要ス

帝室及皇族ノ歲費ハ国庫ヨリ相當ニ之ヲ供奉スヘシ

皇族ハ三世ニメ止ム四世以下ハ姓ヲ賜フテ人臣ニ列ス

陸陽仙台 千葉卓三郎草

草案原本

五日市憲法草案

五日市憲法草案は、明治10年代の自由民権運動が盛んな時期に、全国各地で作られた私擬憲法草案（民間有志による私案の憲法）の一つ。

表題は日本帝国憲法、起草者は千葉卓三郎。明治14年（1881年）の起草と考えられる。全文204条からなり、和紙24枚に細やかな筆文字で清書されている。

昭和43年（1968年）にあきる野市（当時の五日市町）深沢にある深澤家の土蔵の中から、東京経済大学の色川大吉教授とゼミのメンバーによる文書調査によって発見された。

発見者は、起草者である千葉卓三郎の知識や資質が、五日市を中心とする地域の人々との交流や協力により磨かれ、五日市学芸講談会や学術討論会では様々な討論、検討がなされており、五日市の地域社会と切り離しては考えられないことから「五日市憲法草案」と名付けた。

当時の私擬憲法草案の中でも条文が非常に多く、国民の権利を守る規定にその多くを割いていること、五日市地域の有力者や若者たちを中心に学習結社「五日市学芸講談会」を組織し、憲法に関する討論会や学習会を実施するなど、憲法草案起草に至るまでの経緯が分かることなどが評価され、東京都の有形文化財にも指定されている。

憲法草案発見当時（1968年）の深澤家土蔵

千葉卓三郎と深澤父子

千葉卓三郎は、嘉永5年（1852年）宮城県栗原郡伊豆野（現在の宮城県栗原市）で生まれる。旧仙台藩出身の卓三郎は戊辰戦争に敗れた後、様々な学習遍歴の末、明治13年（1880年）から五日市勧能学校（現在の五日市小学校の前身）で教師として勤務している。

学習結社「五日市学芸講談会」の活動を通じて五日市の自由民権運動に大きな影響を与えた。彼と共に活動し、援助をしたのが、深沢村の名主深澤名生とその長男権八親子である。

深澤家は八王子千人同心の株を持つ山林所有者で「東京ニテ出版スル新刊ノ書籍ハ、悉ク之ヲ購求シテ書庫ニ蔵シ」（『利光鶴松翁手記』）といわれるほど。蔵書は、商用などで上京した際に買い求められたと考えられる。

千葉卓三郎を始めとする「五日市学芸講談会」のメンバーはこれらの図書を読み合い、様々な学習会を行い、憲法や法律・政治について討論していた。

五日市学芸講談会

明治10年代に入ると、自由民権運動の盛り上がりとともに各地に「結社」といわれるグループが盛んに作られた。明治13年（1880年）設立の「五日市学芸講談会」もその一つ。

五日市における自由民権運動の中心的組織で、数十名の会員は五日市を中心に周辺の村々にも広がっていた。

卓三郎の憲法草案の起草につながる討論の場であった。

学芸講談会盟約

（参考文献）「多摩の人物伝」・「秋川流域人物伝」・「多摩のあゆみ」・「父が語る五日市人ものがたり」・「『五日市憲法草案の碑』建碑誌」・「五日市憲法草案と深沢家文書」

もっと知りたいゆかりの地

五日市憲法草案の碑

MAP D3

「五日市憲法草案」を後世の人々に広く知ってもらうため、千葉卓三郎生誕地の宮城県志波姫町（発見当時、現在の栗原市）、活躍の地である五日市町（現在のあきる野市）、当時墓所のあった仙台市（資福寺）の3か所に同時に設置された。

五日市中学校敷地の一角に建てられている。

あきる野市五日市400番地

もっと知りたいゆかりの地

深沢家屋敷跡

MAP C1

深沢村の戸長、深澤名生・権八の屋敷跡。土蔵からは、明治の自由民権運動期に作られた私擬憲法草案「五日市憲法草案」が発見された。また、古文書と一緒に明治初期に発行された政治や法律に関する書籍が大量に発見されている。門・物置・土蔵は今も残っている。

あきる野市深沢7番地ほか

もっと知りたいゆかりの地

五日市郷土館

MAP D3

五日市地域の里のくらし、川のくらし等の様子をはじめ、黒八丈関係資料や考古資料を展示している。

五日市憲法草案の関係資料である学芸講談会の開催通知や討論の題目を記したノートなど貴重な品々を見ることができる。

あきる野市五日市920番地1
042-596-4069
9時30分～16時30分
休 月曜日（祝日の場合は翌日）、年末年始（12月27日～1月4日）

教育 疋田浩四郎

【ひきた こうしろう】
1849 - 1896

疋田浩四郎

小学校教員学力検定願

嘉永2年（1849年）3月、摂津国有馬郡三田屋敷町（現在の兵庫県三田市）の三田藩士、疋田隼之助の四男として生まれる。8歳のころから中国の書物の勉強をし、その後江戸へ出て国学や儒学などを学び、帰郷してからも数学、英学などを学んだ。

明治6年（1873年）教員養成所だった横浜啓行堂に入学して教師の資格をとり、明治7年（1874年）に集開学舎（現在の西秋留小学校）の教師になり、明治17年、戸倉学校（児童数50名余り）の第4代校長兼教員として家族とともに赴任。戸倉村（現在のあきる野市戸倉）は教育熱心な村だったが、お金がなく、小学校の校舎も雨漏りがするほど荒れており、門や玄関もなかった。そのため、浩四郎の給料も十分に支払いができず、浩四郎は教師の仕事のほかに早朝には炭を運び、夜はわらじを作り、妻は針仕事の内職や自分の着物を売って生計をたてた。

苦しい生活にも関わらず、戸倉出身の教員たちとともに子どもたちの教育に情熱を傾け、気さくな性格の浩四郎は子どもたちからも信頼され、村人たちの評判もとても良かった。青年層の教育にも熱心に取り組み、「自分たちの村は自分たちの力で」を信念に戸倉村の政治を変えて村を再建していこうとする。明治25年（1892年）選挙では青年会から大勢の若者が村会議員に当選した。

明治29年（1896年）9月、心臓病のため享年47歳で逝去。浩四郎の死を悲しみ、村の人々は村全体で葬儀を執り行う。浩四郎の死後、戸倉村は優良自治体「模範村 戸倉」と名が知られるようになり、明治43年（1910年）内務大臣から表彰される。浩四郎は、戸倉にある光厳寺に埋葬されており、毎年命日には旧戸倉小学校（平成25年3月31日閉校 現：戸倉しろやまテラス）の子どもたちがお墓参りをしていた。

（参考文献）「五日市町史」・「郷土に光をかかげたひとびと」

もっと知りたい ゆかりの地

光厳寺

MAP C3

臨済宗建長寺派。このあたりの禅宗寺院としては最も古い。本尊の釈迦如来は都指定有形文化財。境内に植えられているヤマザクラは、都の天然記念物。

あきる野市戸倉328番地

教育 坂本龍之輔

【さかもと りゅうのすけ】
1870 - 1942

坂本龍之輔（30歳）
画像提供：町田市民文学館ことばらんど

明治3年（1870年）7月23日牛沼村（現在のあきる野市牛沼）の江戸時代から続いている八王子千人同心の世話頭格の家の五人兄弟の三男として生まれる。

7歳で共和学校（現在の西秋留小学校）に入学し、6年後中等科を卒業し、高等科で学びながら助教となり小学生の指導にあたり、18歳で神奈川県の師範学校に合格し、22歳で師範学校を卒業する。西多摩郡古里村の習文小学校（現在の奥多摩町立古里小学校）をはじめ東京市万年尋常小学校（現在の台東区北上野駒形中学校）などいくつかの学校に赴任する。

教育に対する情熱の深さはなみなみならぬものがあり、龍之輔は「小学校こそは人間形成の基礎工期なり」を信念に、貧困で学校に行けない児童のため授業料の免除、教科書・教具貸与のほか、基本的生活習慣にいたるまで熱血を注ぎ、赴任先の子どもや保護者、地域の人々に尊敬され、慕われた。

龍之輔は、およそ20年間東京下町で教育実践に尽力したが、大正10年（1921年）5月心臓病を患って退職。晩年は牛沼に帰り悠々自適の生活を送り昭和17（1942年）年3月26日73歳の生涯を閉じる。

（参考文献）「郷土あれこれ」・「秋川流域人物伝」

もっと知りたい ゆかりの地

敬慕碑

MAP J3

牛沼にある敬慕碑は、東京市万年尋常小学校を卒業した有志でつくる龍生会のメンバーによって、坂本龍之輔の功績を称え生家跡地の一角に建立された。

また、東京市万年尋常小学校の校庭内には、やはり教え子有志によって「郷土の教育開拓者」と題し坂本龍之輔の銅像が建てられている。

あきる野市牛沼80番地

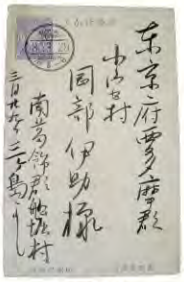
坂本龍之輔の功績を称えた敬慕碑が生家の一角にある。

文化

三ヶ島葭子

【みかじま よしこ】
1886 - 1927

三ヶ島葭子（24歳）
画像提供：所沢市教育委員会


直筆はがき

本名：倉片よし

明治19年（1886年）8月7日埼玉県入間郡三ヶ島村堀之内（現在の所沢市堀之内）に生まれる。

父は小学校の校長先生。母は東京府西多摩郡増戸村（現在のあきる野市伊奈）正一位岩走神社社家宮沢安堯の長女。母は葭子が5歳のとき、病没。その後父は小暮のぶと再婚する。葭子は埼玉県師範学校を病気のため中退したが、宮沢家の世話もあり、明治41年（1908年）6月から大正3年（1914年）3月（21歳から27歳）まで、小宮尋常高等小学校に約6年在職、乙津（落合）の雑貨商の一室を借りて自炊の生活を送る。この時期、与謝野晶子の門下となり、「女子文壇」「スバル」などの雑誌に短歌、散文を発表。大正3年3月結婚を理由に退職。卒業式の後、小宮村から五日市町まで、校長に引率された全校児童に送られて上京。

一時は与謝野晶子の後継者として一目置かれることもあったが、大正5年（1916年）、明星調の作風に疑問を持ち、島木赤彦の門下となる。同年古泉千樫の「青垣会」結成に参加するが、昭和2年（1927年）3月26日、麻布谷町（現在の六本木）の自宅で逝去。享年40歳。

徳雲院にある歌碑 MAP A3

生前の歌集は、『吾木香（われもこう）』のみだったが、子どもの倉片みなみの努力により「三ヶ島葭子全歌集」「三ヶ島葭子日記」（上下巻）が刊行され、小宮時代も含めその全貌がより明らかになった。

徳雲院にある碑は小宮地区の方々が地域の文化向上などを目的に、三ヶ島葭子を後世に伝えたいという思いから建てられたもので、碑には葭子が詠んだ「筏組む木の音冴えて水ませる あさけのたにに 鶯の鳴く」と刻まれている。

（参考文献）「三ヶ島葭子歌集『吾木香』」・「多摩のあゆみ」

もっと知りたい ゆかりの地

徳雲院 MAP A3

臨済宗建長寺派。境内にある歌碑は、地元の有志によって建てられたもの。

季節になるとウメや桜などの花木が境内を彩る。また、五日市七福神の寿老人が祀られており、見どころの一つとなっている。

あきる野市乙津511番地

文化

丸山惣兵衛

【まるやま そうべえ】
1804 - 1897

丸山惣兵衛（定静）

雨間丸山家の系譜

丸山家は戦国時代に甲斐武田家に仕えていたが、天正10年（1582年）武田家滅亡後は徳川家康に仕え、慶長4年（1599年）雨間村（現在のあきる野市雨間）に移住した。慶長5年（1600年）には八王子千人同心千人頭石坂弥次右衛門組の組頭に取り立てられ、その後、子孫は代々八王子千人同心家として代官・領主から帯刀を許され、幕末に至るまで村内では高い地位を占めていた。

御進発御供中諸事筆記

遠征に加わった丸山惣兵衛が帰郷後、この長州征伐出陣中の出来事、幕府の通達、道中の様子、戦闘状況などを、自分の属していた砲術方8番小隊の行動を中心に書き綴った日記で、長州征伐の様子が記された貴重な資料となっている。

また、丸山惣兵衛は八王子千人同心解体後、明治新政府から甲州府兵の護境隊頭取に任命され、隊長につぐ重要なポストに就任している。この護境隊は八王子に常駐し、徳川家支配から明治新政府へと支配が移行する無政府的状況の混乱期に、多摩地域の治安維持に重要な役割を果たした。

（参考文献）「秋川市史」・「多摩のあゆみ」・「丸山雄重家文書目録」

「御進発御供中諸事筆記」（第二次長州征伐の従軍記）を残す

9代目丸山惣兵衛（定静）は、文政7年（1824年）父に代わって千人同心組頭役に就任し、長柄調練や砲術・火術稽古に参加し、弘化3年（1846年）には江戸城の吹上上覧所の前で行われた長柄調練では、老中より手当銀二枚を賜った。文久3年（1863年）の将軍上洛や翌元治元年の再上洛に供奉し、同年「甲州表賊徒追討」にも出張していた。

さらに、慶応元年（1865年）5月から翌2年11月にかけて行われた第二次長州征伐に幕府軍として従軍し、「御進発御供中諸事筆記」（秋川市史史料集第4・第7・第9集として刊行）という日記を残している。これは、

もっと知りたい ゆかりの地

丸山家長屋門 MAP J3

丸山惣兵衛の生家には江戸時代に造られた丸山家長屋門がある。

丸山家は江戸時代の初めの頃から雨間村（現在のあきる野市雨間）の名主を勤めてきた。また、代々八王子千人同心の組頭を勤め、そのような格式の表れとして長屋門が造られている。江戸時代にこのような門を造れる家はごく限られていた。

丸山惣兵衛の生家にある
江戸時代に造られた長屋門

あきる野市雨間

農政

田中丘隅

【たなか きゅうぐ】
1662 - 1729

田中丘隅
画像提供：世田谷区立郷土資料館

寛文2年（1662年）武蔵国多摩郡平沢村（現在のあきる野市平沢）の名主窪島八郎衛門の次男として生まれる。当時の窪島家は代々農業と絹物業を営んでおり、丘隅は幼い妹たちの面倒を見ながら多摩川流域の行商を手伝い、その合間によく本を読んでいた。

22歳の頃、絹物行商に出かけた先の東海道川崎宿（現在の神奈川県川崎市）で、商売への熱意や人柄を見込まれ、川崎宿本陣の名主、田中家の養子になる。

この頃の川崎宿は、多摩川の洪水や地震、また東海道に定められた「伝馬制度」のため経済的に厳しい状況にあった。父の後を継ぎ、当主となった丘隅は「伝馬制」にかかるお金を集めるため、幕府に六郷川（多摩川河口近くの別称）の渡し船の仕事を引き受けたいと願い出て、永代渡船権を得て渡船賃の収入を得るようになり、幕府からも救済金3,500両の支給を受け、短期間で川崎宿の建て直しを図る。正徳元年（1711年）丘隅50歳のとき仕事を子どもに譲り江戸で儒学者、荻生徂徠のもとで農業政策論などを学ぶ。享保6年、自身の体験に基づく民政に関する意見書『民間省要』（全17巻）を書き、農政改革や農民の貧しい生活の様子などが記されたこの本は有識者の間で好評を得て、八代将軍徳川吉宗に献上された。これをきっかけに川除御普請御用という重要な役目を命ぜられた。洪水被害が多かった相模国酒匂川では丘隅が考案したといわれる「弁慶枠（弁慶土俵）」を堤防に設置し、洪水を防ぐ工事をする。

民間省要
画像提供：川崎市市民ミュージアム

回向墓　MAP L2

享保14年（1729年）6月、それまでの業績を認められ武蔵国内の三万石を管轄する支配勘定格という代官になる。しかし、その年の12月、68歳の生涯を閉じた。

丘隅は、田中家菩提寺妙光寺（川崎市）に葬られ、故郷あきる野市平沢の廣済寺にも回向墓が建てられている。

（参考文献）「多摩の人物史」・「多摩の代官」・「郷土あれこれ」・「秋川市史」

もっと知りたい ゆかりの地

廣済寺　MAP L2

臨済宗建長寺派本尊は釈迦牟尼仏である。本堂西側にある墓地には、田中丘隅の事跡を記した回向墓があり、都指定有形文化財にも指定されている。

あきる野市平沢732番地

農政

鈴木寛太郎

【すずき かんたろう】
1883 - 1975

鈴木寛太郎
画像提供：親族所有のアルバムより

明治16年（1883年）10月、西多摩郡西秋留村渕上（現在のあきる野市渕上）に生まれる。明治35年（1902年）、19歳で父忠左衛門について養蚕業に従事、20歳で羽村の成進社蚕業伝習所に入所して養蚕技術を習得、家業に戻るとその温暖育を主とする養蚕法を実行し、その普及を図る。また優良蚕種の導入にも尽力した。

大正14年（1925年）には父と共に繭年間収量1,200貫（4,500kg）をあげ、日本一となり一躍有名になる。昭和11年～18年（1936年～43年）の8年間、いずれも繭年間収量5,000kgを超え、特に昭和14・15年（1939・40年）の両年は1，493貫（5,600kg）という、驚異的な収量をあげ、自己の持つ日本記録を更新した。

また、養蚕経営の傍ら養蚕関連団体などの要職、西秋留村村会議員などを歴任。昭和40年（1965年）には勲五等瑞宝章を受章。昭和50年（1975年）2月、享年93歳の生涯を閉じた。

戦後の最盛期（昭和30年頃）、鈴木家には全国各地から養蚕農家が視察に訪れ、年間1,000人近くにもなったという。外務省・農林省などの紹介でインド・ビルマ・シリア・韓国・アメリカなどからも参観者が多数来訪した。広さ6,600㎡の敷地内には蚕室を兼ねた母屋と専用蚕室を中心に宿舎や桑場、繭貯蔵室などの施設を集中して配置、常時6、7人の従業員が住み込んだ。

外国からの視察者（前列左から2番目）

わらなどで編んだ蔟（まぶし）と呼ばれる網
（五日市郷土館展示品より）

春蚕、初秋蚕、晩秋蚕の上蔟（成熟した蚕をわらなどで編んだ「蔟」と呼ばれる網に移す作業）の最多忙時期には80人もの作業員を雇ったという。

（参考文献）「多摩の人物史」・「多摩の代官」・「郷土あれこれ」・「秋川市史」

もっと知りたい ゆかりの地

鈴木家の養蚕場の面影　MAP H3

日本一の養蚕農家の面影が残る桑保管倉庫。他では見られない半地下式の倉庫で、周囲外壁も当時の面影が残る。

あきる野市渕上

経済

岸忠左衛門

【きし　ちゅうざえもん】
1869 - 1935

胸像　MAP D3

忠左衛門夫妻

明治元年（1868年）、奈良橋村（現在の東大和市）に生まれる。叔母の嫁ぎ先の五日市町の岸家の家督を継ぎ、忠左衛門を襲名する。岸家は炭問屋のかたわらそうめん製造を家業としていた。明治32年（1899年）には西多摩郡会議員に選ばれ、政治的経験も培われていった。

忠左衛門の伝記によると、会議のときも午前2時には起きてそうめん作りの仕事を終えてから、山道をワラジ履きで青梅まで通っていた。当時の交通手段は、馬車か人力車だったため、会議などたびたび訪れる青梅には、鉄道や電気が引かれるのを見て忠左衛門は五日市にも欲しいと痛感した。

その後、秋川流域の有力者の協力を得て、秋川水力電気会社を設立、大正5年（1916年）に電灯をともすとともに、五日市に水道の給水を開始させた。

大正10年（1921年）五日市鉄道株式会社を設立し、大正14年（1925年）に五日市～拝島間を開通させ郷土の近代化に尽力した。

昭和10年（1935年）7月31日、68歳で逝去。町葬をもって、その功績を称えた。

阿伎留神社には、功績を称え岸忠左衛門翁像が設置されている。

（参考文献）「秋川流域人物伝」・「郷土に光をかかげたひとびと」・「多摩のあゆみ」・「五日市町史」

もっと知りたい ゆかりの地

阿伎留神社　MAP D3

平安時代に書かれた「延喜式神名帳」という神社の名簿の中に、武蔵国多磨郡八座の筆頭に上げられる古社。境内の東側にはその功績を称え岸忠左衛門翁像が設置されている。

あきる野市五日市1081番地

武蔵増戸駅前の桜　MAP G2

武蔵増戸駅前にひときわ大きな桜がある。五日市鉄道の開通を祝って大正14年に植えられたもの。開通時は沿線の住民が花火を上げるなど、お祭り騒ぎであった。

令和6年3月に植え替えられ、現在は2代目の桜となっている。

あきる野市伊奈873番地2
（写真は1代目の桜）

ゆかりの人に想いを馳せる散策モデルコース

徒歩　バス

歴史探訪コース

●田中丘隅・丸山惣兵衛・坂本龍之輔の足跡をたどる（所要時間：約2時間30分）

東秋留駅 →(7分) 秋川ファーマーズセンター →(15分) 田中丘隅回向墓（廣済寺） →(7分) 玉泉寺 →(5分) 二宮考古館 →(1分) 二宮神社 →(25分) 地蔵院 →(5分) 西光寺 →(8分) 丸山惣兵衛長屋門 →(12分) 西秋留石器時代住居跡 →(5分) 秋川神明社 →(2分) 坂本龍之輔の碑（敬慕碑） →(20分) 秋川駅

近隣の見どころ　●都立秋留台公園［K2］　●秋川ファーマーズセンター［K2］　●二宮考古館［L2］

文化探訪コース

●海老澤峰章・鈴木寛太郎に学ぶ（所要時間：約2時間）

武蔵引田駅 →(10分) えびさわみち（道）の碑 →(20分) 渕上の石積井戸 →(5分) 出雲神社の桜 →(1分) 鈴木家 →(10分) 真照寺 →(7分) 海老澤峰章の碑（顕彰碑（宝泉寺）） →(20分) 瑞雲寺 →(15分) 武蔵増戸駅

近隣の見どころ　●東京サマーランド［H3］　●出雲神社の桜［I3］

●疋田浩四郎を偲ぶ（所要時間：約2時間30分）

武蔵五日市駅 →(15分) 阿伎留神社 →(20分) 広徳寺 →(30分) 戸倉しろやまテラス →(7分) 光厳寺 →(20分) 五日市郷土館 →(20分) 武蔵五日市駅

近隣の見どころ　●光厳寺のヤマザクラ［C3］

●五日市憲法草案・萩原タケ・岸忠左衛門に学ぶ（所要時間：約3時間30分）

武蔵五日市駅 →(50分) 深沢家屋敷跡 →(50分) 勧能学校跡 →(10分) 五日市憲法草案の碑（五日市中学校） →(1分) 萩原タケ胸像（五日市出張所） →(7分) 五日市郷土館 →(20分) 広徳寺 →(15分) 岸忠左衛門の碑（阿伎留神社） →(8分) 岸忠左衛門の家 →(7分) 武蔵五日市駅

近隣の見どころ　●南沢あじさい山［C2］　●広徳寺のイチョウ［D4］

●三ヶ島葭子を偲ぶ（所要時間：約3時間）

武蔵五日市駅 →(15分) 十里木バス停 →(10分) 三ケ島葭子の碑（徳雲院） →(20分) 五柱神社 →(30分) あきる野ふるさと工房 →(20分) 瀬音の湯 →(5分) 石舟橋 →(5分) 十里木バス停 →(15分) 武蔵五日市駅

近隣の見どころ　●あきる野ふるさと工房［A3］　●秋川渓谷 瀬音の湯［A3］

● 神社・仏閣など見学、拝観にあたってはマナーを守りましょう。　● 許可なく個人の敷地には入らないでください。

山深い地に五日市憲法草案が眠っていた。

C1
深沢家屋敷跡
真光院
山抱きの大樫
三内川
深沢

大きな岩の上に大樹がそびえたつパワースポット。

南沢あじさい山

境内にある杉は、市の天然記念物。樹齢 400 年の杉の幹周りは東京都一といわれている。

怒田畑
薬師堂

三ヶ島葭子の歌碑があり、詠んだ歌が刻まれている。

金比羅山
金比羅公園

高明神社
軍道
明光院
小宮ふるさと
自然体験学校
養沢川

あきる野市

琴平神社

秋川渓谷の自然の豊かさ、力強さを感じられる絶景スポット。

普光寺
神明社
星竹

「五日市」の歴史が詰まっている。

五柱神社
寺岡
乙津
春日明神社
落合
八幡神社
A3 徳雲院
三ヶ島葭子ゆかりの地
三ヶ島葭子を偲ぶ
大戸里神社
白山神社
秋川
坂下
戸倉運動場
神明社
西戸倉
三島神社
アートスタジオ五日市
戸倉
本郷
小中野
武多摩神社
C3 光厳寺
足田浩四郎ゆかりの地
子生神社
沢戸橋
足田浩四郎を偲ぶ
戸倉しろやまテラス
神明社
龍珠院
乙津花の里
乙津
十里木
秋川渓谷
瀬音の湯
石舟橋
追分
城山
城山
荷田子
荷田子
あきる野ふるさと工房

宿泊施設。日帰り入浴や足湯も楽しめ、旅の疲れを癒す。

小宮神社
盆堀川

足田浩四郎のお墓があり、ヤマザクラは見事。

足田浩四郎が教育に情熱を傾けた学校（敷地内に植えられている大モミジやソメイヨシノが見事）

桜の頃になると、付近一帯が桜やミツバツツジなどの花に包まれる。

都の無形文化財に指定されている軍道紙はここで作られている。

戸倉のシンボル的存在。頂上からの眺めは絶景。

刈寺川

山一面のアジサイは圧巻。

昔の面影が今も残されている。

伊達政宗公が宛てた書簡「白萩文書」が保存されている。9月に咲く白萩は見事。

神社社家は三ヶ島葭子の生母の実家。毎年９月中旬には正一位岩走神社例大祭が盛大に行われる。

4月頃ミツバツツジが山をピンク色に染める。

岸忠左衛門翁胸像
五日市鉄道顕彰碑
毎年９月28日～30日には阿伎留神社例大祭が盛大に行われる。

山門をくぐると、大銀杏に圧倒される。

スマホアプリ（AvenzaMaps）であきる野市を歩いてみよう

AvenzaMapsは世界中のフリーマップがダウンロードできるアプリです。アプリストア（AppStore／GooglePlay）で「AvenzaMaps」を検索するか、下の二次元コードからインストール可能です。

地図のダウンロードは ⇒

アプリのダウンロードは

Download on the App Store　GET IT ON Google Play

海老澤峰章の徳を称えて命名した道路の道標。

日本一の養蚕農家の面影が残る桑保管倉庫。他では見られない半地下式の倉庫で、周囲外壁も当時の面影が残る。

都指定有形文化財の薬師堂と市指定有形文化財の山門がある。

海老澤峰章顕彰碑がある。臨済宗建長寺派のお寺。

市の保存樹木。枝ぶり、大きさともに立派な桜が境内を彩る。

地表面からすり鉢状に掘り下げた井戸で、底の水を汲むための小道が周囲を旋回し、「まいまいず井戸」とも呼ばれている。（市指定史跡）

坂本龍之輔の功績を称えた敬慕碑が生家の一角にある。

G2 武蔵増戸駅前の桜

I2 海老澤峰章ゆかりの地 えびさわみち道標

H3 鈴木家の養蚕場の面影 鈴木寛太郎ゆかりの地

海老澤峰章・鈴木寛太郎に学ぶ

海老澤峰章ゆかりの地（顕彰碑） 宝泉寺 H3

真照寺

出雲神社の桜

J3 坂本龍之輔ゆかりの地（敬慕碑）

渕上の石積井戸

あきる野市

八王子市

P10〜11に続く

1:16,000

0 150 300 450 600m

12

秋川渓谷

秋川多摩甲斐国立公園

森っこサンちゃん

春は約130本の桜、サツキ類、バラなどが鑑賞できる。

毎年9月9日には二宮神社の祭礼が盛大に行われる。

真っ赤に染まるモミジは市の保存樹木。

田中丘隅の事跡を記した回向墓がある。

センター中央に田中丘隅を称える展示コーナーがある。あきる野の新鮮野菜が並ぶ。

菅生 福泉寺 宝蔵寺 平井川 瀬戸岡 御堂中 長泉寺 大行寺 草花 多摩川 神明社 日の出IC 411 珠陽院 草花公園 草花小 内田電気商会 グリーンフィール本草花 原小宮 八幡社 あきる野郵便局 S&D秋川キララホール 中央図書館 秋川 秋川駅 秋留台高 東中 秋川体育館 中央公民館 あきる野市役所 都立秋留台公園 五日市街道 大塚古墳 JR五日市線 秋川ファーマーズセンター 玉泉寺 二宮考古館 二宮神社 二宮 東秋留駅 普門寺 新開院 薬師堂 東部図書館 至拝島 油平 田中丘隅・丸山惣兵衛・坂本龍之輔の足跡をたどる 東秋留小 前田小 野辺 八雲公園 八雲神社 林泉寺 熊野神社 法林寺 福徳寺 八幡社 J3 丸山惣兵衛ゆかりの地 丸山家長家門 地蔵院 牛沼 南秋留小 雨間 西光寺 西秋留石器時代住居跡 秋川神明社 東秋留橋 秋川 秋留橋 いきいきセンター グリーン運動広場 切欠 宝清寺 地蔵堂 慈眼寺 秋川ふれあいランド 411 森山神社 L2 廣済寺 田中丘隅ゆかりの地 平沢

市内で発掘された縄文時代の土器や石器などを展示紹介。

丸山惣兵衛の生家にある江戸時代に造られた長屋門。

境内の大杉は市の天然記念物。ご神木として大切に保護されている。

縄文時代中期末から後期にかけての遺跡。5軒の敷石住居跡などが発見され、国の史跡に指定されている。

境内には、都天然記念物カゴノキと市指定の板碑やカヤがある。

凡例

ゆかりの人物スポット	市町村界
医療	神社
教育	寺院
文化	市役所
農政	警察署・交番
経済	消防署・出張所
歴史	郵便局
その他スポット	学校
散策モデルコース	トイレ

この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分1地形図を使用した。（承認番号　平25関使、第110号）

Tokyo

Access map

電車をご利用の方

新宿駅～秋川駅（中央線・青梅線・五日市線）約1時間

車をご利用の方

関越道 鶴ヶ島JCTから
圏央道 あきる野ICまで 約25分

中央道 八王子JCTから
圏央道 あきる野ICまで 約8分

お問合せ

あきる野市商工観光部観光まちづくり推進課
〒190-0164 東京都あきる野市五日市411番地
TEL：042-558-1111

初　版　平成26年3月
第6版　令和　8年3月